

どろあしびしゃもんでんそん 泥足毘沙門天尊



とで、上杉家では特に「泥足毘沙門天」と尊称して、善光寺如来尊とともに米沢城本丸に

上杉謙信公の居城である越後春日山城本丸北側にあった毘沙門堂のご本尊で、謙信公がもっとも崇拝された御守本尊であった。特に出陣にあたっては、数日籠もって読経し祈り続けたといわれ、ある時夜を徹して祈願をこめて朝になると、護摩壇の上から外に向かつて点々と毘沙門天の足跡が残っていたことから、謙信公の戦陣にまで出向かれて加勢されたというこ

造営された御堂に、謙信公のご遺骸を中央にして左右に祀り、歴代藩主によって深く尊崇された。明治九年当寺に移され奉安された。

出陣の際、謙信公が主だった武将を毘沙門堂に招集して、「正義の戦い」であるとの誓いをこめて戦勝を祈願した「武祕式」はあまりに有名である。また、上杉家の軍旗「毘」の字はこの毘沙門天信仰によるものである。

隣接して法音寺がお勤めをする藩祖謙信公をはじめ歴代米沢藩主の墓所、上杉家御廟所（国史跡指定文化財）がある。



《境内のごあんない》



幸寿丸の墓



景勝公殉死者の墓



矢尾板三印の墓



池田成章の墓



米沢藩主 上杉家菩提所 真言宗豊山派
米沢善光寺如来尊 奉安所
泥足毘沙門天尊

◎ 八海山法音寺

〒992-0055 山形県米沢市御廟一丁目5番32号
TEL 0238-22-2095 FAX 0238-22-2096
HP <http://www.houon.org/> Email hounon@houon.org

ご参拝のしおり

米沢藩主 上杉家菩提所

八海山法音寺



八海山 法音寺について

一、縁起及び沿革

法音寺は山号を八海山といい、天平九（七三七）年、聖武天皇の勅命により、越後国魚沼郡藤原の里、八海山の麓（現在の新潟県南魚沼市六日町）に建立された。天皇の命を受けて諸国巡視中であつた藤原正照卿が越後国飯盛山で病死し、その菩提を弔うために、行其菩薩が勅命により法相宗の寺を建立したのが始まりである。寺号は、正照卿の法名「都院院殿正二位正照法音大居士」に拠つたものである。その後、越後国真言宗国分寺兼務を命ぜられ、源頼朝公や上田長尾家の祈願寺となり、天正年間には上杉謙信公の祈願寺となる。

慶長六（一六〇一）年、上杉家が会津を経て米沢に移られたのに随つて、施主、上杉景勝公によって米沢城二ノ丸に伽藍が建立され、米沢藩主上杉家の菩提寺となる。また、米沢城本丸に建てられた謙信公のご遺骸を祀る御堂に勤仕する真言宗二十一ヶ寺（二ノ丸寺院）の筆頭役、及び藩内真言宗僧録司となり、さらに、正保二（一六四五）年、嵯峨大覚寺より院室名を永代兼帯されて、院室菩提心院を贈られ、寺格は院主録所談林中本山となる。



ご本尊の大日如来尊

明治に入り、廃藩置県、破城令、神仏分離令などの措置により、明治三（一八七〇）年、藩命により歴代藩主御廟所のある現在の地に移転され、さらに、二ノ丸寺院の廃寺、米沢



上杉家御霊所

城が取り壊された本丸の地に上杉神社が造営されたのに伴い、明治九（一八七六）年、謙信公の御霊廟も本丸

より御廟所中央の現在地に移された。その後は、歴代藩主御廟所にお勤めをしながらも、一般の檀家も受け入れ、檀信徒それぞれ互いに力を合わせ、仏道宣揚の浄業に励んでいる。

一、宗派及び本山

もとは法相宗で本山は奈良の興福寺であつた。その後、真言宗にかわり醍醐三法院の末寺となつたが、現在は真言宗豊山派で、本山は奈良の長谷寺である。

一、山内と案内

本堂には、真言密教の教主である大日如来を本尊とし、上杉謙信公がもつとも崇拜し、日々祈りを込めた泥足毘沙門天尊、信濃より遷された善光寺如来尊、上杉家歴代藩主の位牌を祀る御霊屋など、上杉家に関わる多くの由緒ある仏様や什物を奉安している。

また、境内には幸寿丸の墓、景勝公殉死者の墓、矢尾板三印の墓、池田成章の墓などがあり、いずれも上杉家とご縁の深い方々のお墓がある。

善光寺如来尊



善光寺如来尊はインドより百済を経て五五二年仏教伝来と共に欽明天皇に献じられた我が国最古の仏像とされる三国伝来の秘仏である。推古

天皇十（六〇二）年に信濃国若麻績東人（後に本田善光と云う）がこれを奉載して祀つたのが、信濃善光寺如来尊である。

天文二十（一五五一）年、川中島の戦いの折、信州中野城主高梨頼政は戦国の兵火を避けるため、信濃善光寺のご本尊を上杉謙信公に奉じた。謙信公は春日山

に如来堂を建ててご本尊を懇ろに奉祀するとともに深く尊崇し、厳重に守護した。

慶長六（一六〇一）年、上杉家の国替えに伴い善光寺如来尊も米沢に移され、景勝公は米沢城本丸の東南隅に藩祖謙信公を祀る御堂を建て、御堂本殿の中央に謙信公のご遺骸を、右に善光寺如来尊、左に泥足毘沙門天尊を安置し、さらに二ノ丸に御堂に勤仕する真言宗二十一ヶ寺を建立して、守護の掟願を厳重にして、その供養勤行は丁寧を極め代々奉祀された。

明治九年本丸にあつた御堂が解体されて謙信公のご遺骸が御廟所中央の現在地に遷座された際、善光寺如来尊、泥足毘沙門天尊は当寺に移され奉安された。

毎年、五月十五日にご開帳法楽祈願祭を厳修して、世界平和、万民息災と諸願成就を祈願する。